平成７年度第３回12月13日

演題：スウェーデンにおける保育労働について

演者：島岡　みどり（体育科学部）

先進諸国では、勤労者の子どもの保育のために、社会福祉制度に基づき多くの保育所が設置されている。そこで働く保母は、保育に関するさまざまな作業をしており、その中には身体的にかなりの負担となるような作業も含まれている。日本では、いくつかの報告で保母の筋骨格系障害の問題が指摘されており、労働省の労災に関する調査でも取り上げられている職種の１つである。一方、スウェーデンでは、保母の筋骨格系障害の年間発生率は一般人とほぼ同じかやや低いことが報告されている（小野、1995）。このように、保母の筋骨格系障害についての取り上げ方は両国で異なっているが、もし保母の身体作業負担が日本よりスウェーデンの方が低ければ、この違いの一部を説明できるかもしれない。そこで、平成６年５月にスウェーデンの保育園保母の身体作業負担を調査したので、その結果の一部を紹介する。

19人のスウェーデン人保母（１～５才児の混合保育）について勤務時間中の毎分心拍数(HR)を携帯心拍記憶装置（竹井機器製）を用いて記録した。得られた毎分HRから、勤務時間中の平均HR、平均%HRR（[毎分HR－安静時HR]／[最高HR－安静時HR]×100)、%T＞30%HRR（30%HRRを超える毎分HRが勤務時間全体に占める割合）を求めた。最高HRは年齢との間の一次関係式（Bruce、1973）から算出した。安静時HRは測定した毎分HRの最低値が60以上の場合は60、60未満の場合は毎分HRの最低値とした。被検者には勤務中の作業内容を日誌に記録させた。

スウェーデン人保母の勤務時間中の平均HR、平均%HRR、%T＞30%HRRの平均値±標準偏差は、それぞれ92.3±8.0bpm、26.1±5.8%、32.8±18.8%であった。平均HRについて、t-検定を用いて日本の保母（59人）と比較すると、担当児年齢にかかわらず、両国間に有意な差はみとめられなかった。スウェーデン人保母の平均%HRRと%T＞30%HRRは、日本の０才児担当保母や１－２才児担当保母に比較して有意に高い値を示した（$P<0.05$）が、３－５才児担当保母との間には有意差はみられなかった。スウェーデン人保母の心拍数からみた活動水準が日本の０－２才児担当保母より高かったことは、屋外での遊戯に関する作業の心拍水準が高くその時間も長いことに関係していることが作業日誌との突き合わせから明らかになった。心拍数水準からみる限り、スウェーデンの保母の作業強度は低いどころかむしろ日本より高かったことから、両国の筋骨格系障害の問題の大きさの違いを説明するためには、作業形態（各作業についての姿勢や頻度など）や各種体力の検討が必要であると考えられた。